

サッカーW杯 アジア最終予選組み合わせ 日本はB組

サッカーの2018年ワールドカップ(W杯)ロシア大会アジア最終予選の組み合わせ抽選会が12日、マレーシアのクアラ Lumpur プールであり、6大会連続6回目の出場をめざす日本は、オーストラリア、サウジアラビア、アラブ首長国連邦(UAE)、イラク、タイと同じB組に入った。2次予選を勝ち抜いた12チームが、2組に分かれて争う最終予選は、9月から17年9月まで、各組上位2チームが本大会の出場権を獲得。3位同士の勝者が北中米カリブ海4位と大陸間プレーオフを争う。日本の初戦は今年9月1日、ホームでUAEと戦う。UAEは15年1月のアジア杯準々決勝でPK戦の末に敗れた相手。オーストラリアとは3大会続いてアジア最終予選で同じ組になった。

A組 イラン、韓国、ウズベキスタン、中国、カタール、シリア

豪州

ケーヒル健在

W杯アジア2次予選では、36歳のFWケーヒルが8得点するなど、8試合で29得点、7勝1敗のB組首位で最終予選に進出した。13年秋に就任し、14年ブラジルW杯の1次リーグで3連敗した後も続投したボステコグルー監督の下で、攻撃の連携が深まっている。自国開催の15年アジア杯では、延長戦になった決勝戦で韓国を破って初優勝を果たした。MFルオンゴら若手も成長している。

サウジ

進む世代交代

W杯は初出場で16歳入りした1994年から4大会連続出場したが、10年、14年と出場を逃し、世代交代を進めてきた。2次予選の第1戦を終えたあと監督交代に踏み切り、10年W杯で母国オランダを準優勝に導いたファンマルウェイク監督を迎えて首位突破を果たした。6勝2分けで28得点4失点、前回大会予選を知る29歳のサラウィが半分の14点をたたき出している。

UAE

力つける若手

15年アジア杯で3位に入った。準々決勝では日本と延長戦の末、1-1の同点。PK戦で勝った。日本戦でゴールを決めるなど計5得点を挙げて大会得点王になったFWマブフトが中心だ。2次予選はA組2位。1位のサウジアラビアとは1敗1分けだった。09年の20歳以下(U20)W杯で8歳入りし、12年ロンドン五輪にU23代表が出場。若手が力をつけてきている。



難敵ぞろい 日程有利

15年1月のアジア杯4強が3チームいるB組だが、日本は日程に恵まれた。1年かけて戦う長丁場で4回ある2連戦。ホームで初戦を戦ってから、アウェーに移動すれば、地元のリを十分に生かせる。逆の対戦順だと、ホームでも試合前に長時間の移動や時差調整の負担がある。日本はホームが先のパターンが3回。15年1月のアジア杯4強のUAE、イラク、オーストラリアとのホーム戦は、いずれも連戦の初戦になった。ライバルのオーストラリアは、連戦の初戦がホームになっているのが1回。アウェーを先に戦う日程が3回ある。連戦の初戦がアウェーになる難所は3月。初戦はUAE戦。続くホームは格下と見られるタイ戦。主力の欧州組にとっては、日本よりUAEの方が近く、不利な要素は軽減される。

監督「道のり困難だがぶれない」



日本代表のハリルホジッチ監督は都内の日本サッカー協会で記者会見し、抽選結果について「アジア杯4強のうち3チーム(豪州、UAE、イラク)が同じ組に入った。道のりは困難だが、予選突破の目的はぶれない」と警戒感とともに強い決意を示した。この3日間、各国の映像に目を通し、最終予選の展望について「予選を突破できれば、いい組み合わせだったと、後から言うだろう。突破できなければ、悪い組み合わせと言うだろう」と慎重な言葉を遣った。しかし就任から1年が過ぎた現在のチーム力には「1年前の就任時はW杯とアジア杯敗退の失望感が選手にあったが、現在は勝利への飢えと野心に変わってきた」と手応えも口にした。

対戦国

アラブ首長国連邦
世界ランク68位

W杯出場回数
1回(1990)
対戦成績
日本の5勝2敗8分け

イラク
105位
1回(1986)
6勝3敗2分け

サウジアラビア
80位
4回(1994, 98, 2002, 06)
7勝3敗1分け

タイ
119位
0回
14勝2敗4分け

オーストラリア
50位
4回(1974, 2006, 10, 14)
8勝7敗8分け

日本
世界ランク57位
5回
(1996, 2002, 06, 10, 14)

W杯アジア最終予選 組み合わせ B組



日本の最終予選日程	
ホーム	アウェー
2016年	
9/1 アラブ首長国連邦	⑩
/6 タイ	⑨
10/6 イラク	⑧
/11 オーストラリア	⑪
11/15 サウジアラビア	⑫
2017年	
3/23 アラブ首長国連邦	⑩
/28 タイ	⑨
6/13 イラク	⑧
8/31 オーストラリア	⑪
9/5 サウジアラビア	⑫

イラク

リオも出場権

2次予選F組でタイに次ぐ2位で最終予選に進んだ。国内の政情不安のため、ホーム戦は中立地帯ヘランで戦った。15年アジア杯で4位。日本は1次リーグで対戦し、FW本田のPKで1-0で勝った。同年6月、横浜での親善試合は日本が4-0で快勝した。U23代表はリオデジャネイロ五輪の出場権を獲得。五輪を経験した若手が伸びれば、難敵になるかもしれない。

タイ

急成長みせる

14年仁川アジア大会で4強入りし、同年の東南アジア選手権で優勝。国内リーグの充実を背景に急速に力をつけている。W杯アジア2次予選は4勝2分け。格上のイラクを抑えてF組を首位で突破した。そのイラクとの2次予選での対戦は、2試合とも2-1で引き分け。ホームでは0-2から残り10分で2得点する粘りを見せ、アウェーでは試合終了間際まで2-1でリードしていた。

初戦の重要性とともにポイントに挙げたのが、アジア特有の移動時間の長さとそのに伴う体調管理の大切さ。「海外組は12時間かけて日本に戻り、2、3日で試合がある。疲労回復が大切だ」と語った。豪州・ボステコグルー監督「タフな組になった。日本と対戦する時はいつもタフな試合になる。今回も同様だ。タフで、とても楽しいゲームになると思う。」(時事)